

【論文】

心身の状況を表す擬態語の習得についての考察

—中国語話者の作文データをもとに—

吉 永 尚

0. はじめに

日本語学習者にとって、オノマトベ（擬態語・擬音語などの総称）の学習は一般的に難度が高いとされてきたが（有賀（2007）、中石（2014））、その文法的性質や習得状況などについて、実証的な研究はあまり行われてこなかった（中石（2014））。本稿では「ずきずきする」や「ぺこぺこだ」のような心身の状況を表す擬態語¹⁾を取り上げ、語彙的特徴を詳しく調べる。そして、中国語話者を対象としたアンケートをもとに習得状況を観察し、語彙的特徴と習得がどのように関わるのかについて考察する。考察の結果、多様な品詞派生や部位限定性による複雑さが習得を困難にしていることが推測されたが、この知見は日本語教授法の改善に応用できるものと思われる。

1. 心身の状況を表す擬態語の分類と特性

1.1 擬態語の統語的分類

吉永（2015）の統語的性質による擬態語の4分類を再度提示する。

〈TypeA〉・・・「する」が付加され擬態語動詞として用いられる。「だ」は付加できない²⁾。

〈「する」を付加した形〉

いらいらする、はらはらする、くよくよする、わくわくする、かつとする、はっとする、ひやっとする、ほっとする、ポーッとする、ほんやりする、むっとする、すっとする、ぞっとする、どきっとする、びくっとする、むかっとする、すっきりする、さっぱりする、うっかりする、がっかりする、うんざりする、どきどきする、ずきずきする、きりきりする、がんがんする、じんじんする、ちくちくする、ひりひりする、ぴりぴりする、むかむかする、むずむずする

〈TypeB〉・・・「だ」が付加されナ形容詞として用いられる³⁾。「する」は付加できない点でAと異なる。状態の変化を表す場合は、「くたくたになる」のように「だ」は「に」（「だ」の連用形）に変化する。

〈「だ」を付加した形〉

くたくただ、からからだ、ぺこぺこだ、へとへとだ、ぐちょぐちょだ、びちょびちょだ、がりがりだ、ほろほろだ、ずたずただ、がびがびだ、しわくちやだ、しわしわだ

〈TypeC〉・・・「する」と「だ」が両方付加できるもの。(「すべすべした類」「すべすべの類」のように名詞を修飾する場合は、「する」が「した」に変化したり助詞の「の」が付加される。)

〈「する」と「だ」を付加した形〉

ふらふら (だ/する)、ぐらぐら (だ/する)、くらくら (だ/する)、ざらざら (だ/する)、さらさら (だ/する)、つるつる (だ/する)、ぬるぬる (だ/する)、ねとねと (だ/する)、べとべと (だ/する)、べたべた (だ/する)、じくじく (だ/する)、じゅくじゅく (だ/する)、ぐじゅぐじゅ (だ/する)、かさかさ (だ/する)、がさがさ (だ/する)、すべすべ (だ/する)、ふわふわ (だ/する)、ふにゃふにゃ (だ/する)、ぐにゃぐにゃ (だ/する)、くしゃくしゃ (だ/する)、がくがく (だ/する)、がたがた (だ/する)、しょぼしょぼ (だ/する)、よろよろ (だ/する)、ひよろひよろ (だ/する)

〈TypeD〉・・・特定の動詞と結びつき、原型で副詞的に用いられるもの。通常、「する」や「だ」が付加されない。

ぐっすり (眠る)、すやすや (眠る)、とろとろ (眠る)、ぶるぶる (震える)、ぷるぷる (震える)、わなわな (震える)、ぐっしょり (濡れる)⁴⁾

擬態語には用法が分化しているものが多く、「目がごろごろする」では目に異物があり不快な様子を意味し、副詞的に「ごろごろ転がる」「雷がごろごろ鳴る」の様に用いられる場合もあるが、本稿では心身の状況を表す用法のみ扱う。

1.2 擬態語の名詞性

吉永 (2015) では、A は動詞性、B は形容詞性を、C は動詞的・形容詞的性質を両方持つとし、D は副詞的用法に特化した名詞成分と考えたが、いずれも原型は名詞性が強いと判断する⁵⁾。

影山 (2005) は擬態語動詞では「する」が持つ意味構造に擬態語の意味が組み込まれ、「擬態語+する」全体の意味は通常の動詞と実質的に同じになると述べているが、A は元々時間性を持つため擬態語動詞に派生し、一部にはアスペクト性が見られる⁶⁾。田守 (1993) は人間の心理・感覚を記述する「擬情語」は例外なく動詞組み入れが可能と述べ、物事の性質を表すものとの相違を示唆しているが、前者は A、後者は B に相当すると思われる。つまり、擬態語の元々の意味性質によって述語が選択され、「する」が付加されると動詞、「だ」が付加されるとナ形容詞として機能し、各語本来の意味と述語機能が統合され新たな擬態語述語を形成すると考える。

加藤 (2015) は名詞、副詞、ナ形容詞、連体詞を「体詞」として一つのグループにくくる事を提唱しており、名詞修飾の際の形態「~の」、「~な」は名詞・ナ形容詞分別の決定的証拠ではないと述べている。また、一時的状況を表す語彙群と時間性を意味に含まず永続的状況を表す語彙

群に名詞を区分する必要があるとしている。この区分に従うと、A は動作名詞、B は状態名詞、C は両用名詞、D は副詞に特化した普通名詞にそれぞれ該当すると考えられる。加藤（2015）の名詞区分（表2）に4種の擬態語を当てはめたものを表1で示す。擬態語は「体詞」のグループに属すと考えられる⁷⁾。表1の「+」は許容されることを示し、「-」は許容されないことを示している。

表1 名詞の区分（=加藤（2015：58）「表2：名詞の区分」）

		「X スル」で動詞に用いる	
		+	-
「X な」で形容動詞に用いる	+	両用名詞（C）	状態名詞（B）
	-	動作名詞（A）	普通名詞（D）

1.3 擬態語の部位限定性

生理的感覚を表す擬態語は身体の特定位部に使用が限定される場合が多く、「～が～だ」「～が～する」のように感覚を体感する部位は「が格」で表示されることが多い。部位と主な擬態語を以下に表示する。

表2 感覚を体感する部位と擬態語

部位	擬態語	部位	擬態語
頭	ずきずき、がんがん、ふらっ、くらくら	脚	ふらふら、ぐにやぐにや、ふらっ、ぐらぐら、がくがく、よろよろ、かくん
のど	からから、いがいが、がらがら	傷口	ずきずき、きりきり、じんじん、ひりひり、びりびり、むずむず、ちくちく、がんがん、じゅくじゅく、じくじく
心臓	どきどき、どくどく、どっきん	目	ちかちか、じんじん、ごろごろ、ほんやり、ちらちら、くしゃくしゃ
胃	ずきずき、きりきり、ちくちく、むかむか、がんがん、しくしく	鼻	むずむず、ぐじゅぐじゅ、すーすー、ぐすぐす
腹	ぺこぺこ、しくしく	耳	つーん、きーん、がんがん
背中	ぞくぞく、むずむず、ぞっ	歯	ずきずき、ちくちく、きりきり、ぐらぐら、がたがた
手足	ずきずき、ちくちく、じんじん、ひりひり、むずむず、ばんばん、ぴりぴり、ぴくぴく、ぶるぶる、しわしわ、がさがさ、かさかさ、だらん		

(1.1節のリスト以外のものも挙げている。個人差、方言により表現が異なる)

2. 中国語話者の擬態語習得についての調査結果

2.1 品詞分類の知識の関与

擬態語の語彙的性質と習得状況の関与を調査するため、中国の複数の教育機関で4種類のアンケートを実施（末尾に調査表を添付）し、集計結果を分析した⁸⁾。

擬態語文の文末「だ/する」を選択させる部分作文アンケート①（比較的難度が高いため中国語訳を付した）を実施し、誤用数集計を表3にまとめた結果、「*ぞっとだ」「*ずきずきだ」

「*からからする」「*ぺこぺこする（空腹の意で）」「*くたくたする」の誤用が全レベルで多いことがわかった。これらは、動詞、形容詞、副詞の用法や品詞分類の知識がないための誤用と判断される。

表3 アンケート①文末選択の誤用数⁹⁾（総数の多い順・（ ）内は誤用率（%））

擬態語	上級（23名）	中級（22名）	初級（29名）
ぞっと	8(35)	13(59)	19(66)
からから	7(30)	12(55)	20(69)
ぺこぺこ	7(30)	10(45)	18(62)
くたくた	5(22)	9(41)	18(62)
ずきずき	6(26)	9(41)	17(59)
がらがん	5(22)	8(36)	15(52)
きりきり	4(17)	7(32)	12(41)
いらいら	4(17)	6(27)	14(48)
どきどき	3(13)	5(23)	12(41)

次に、擬態語の習得状況を全文作文アンケート②で調査し集計結果を表4に示す。

表4 アンケート②全文作文の誤用数（無回答も誤用に算入・（ ）内は誤用率（%））

擬態語	上級（23名）	中級（22名）	初級（29名）
ぞっと	10(43)	15(68)	23(79)
からから	9(39)	14(64)	21(72)
くたくた	8(35)	12(55)	18(62)
ずきずき	10(43)	13(59)	22(76)
がらがん	7(30)	10(45)	20(69)
きりきり	5(22)	8(36)	16(55)
いらいら	6(26)	9(41)	18(62)
どきどき	5(22)	8(36)	17(59)

〈多く見られた作文誤用例（文末に関するもの）〉（（ ）内は上・中・初級レベルの略）

- | | |
|--|---------------------------------|
| (1) *からだ <u>がぞっとだ</u> 。(上) | (2) *暑い時のどは <u>からからする</u> 。(上) |
| (3) *は <u>した</u> 、 <u>くたくたします</u> 。(中) | (4) *歯が <u>ずきずきだった</u> 。(中) |
| (5) * <u>あたまががらがんです</u> 。(中) | (6) *待つとき <u>いらいらになります</u> 。(中) |
| (7) * <u>いらいらな</u> バス <u>まちます</u> 。(初) | (8) * <u>いつもどきどきになります</u> 。(初) |

文末選択で誤用率の高いものは全文作文でも誤用率が高いことがわかった。

誤用例を観察すると、擬態語の習得と品詞分類の知識の関連が推測され、誤用を減らすためには語彙導入時の品詞の理解も必要であると言える。

浜野（2014）では、オノマトペから派生する「擬態語動詞」は生産的であるが深く理解されていない領域であるとし、日本語教科書やオノマトペ辞書では、統語的に全く異なる「擬態語動詞」と「擬態語副詞」の明確な区分がないので非効率的であるとし、品詞分類の指導の必要性を提唱している。

2.2 部位限定性の知識の関与

擬態語と部位との関係も理解定着のためには必要であると思われる。特定部位に対応する擬態語を選択する部分作文アンケート③を実施した。正答率が低いものは、前出表4で見られた全文作文の正答率が低いものとおおよそ一致し、関連が見られた。全文作文アンケート②との関連を見るため、擬態語が一致する設問1、4、5、6、8の集計結果を表5に示す。

表5 アンケート③擬態語選択の誤用数（無回答も誤用に算入・（ ）内は誤用率（%）

擬態語	上級（23名）	中級（22名）	初級（29名）
ずきずき	9(39)	11(50)	18(62)
がんがん	7(30)	9(41)	16(55)
きりきり	5(22)	8(36)	17(59)
いらいら	4(17)	6(27)	12(41)
どきどき	5(22)	6(27)	13(45)

〈多く見られる作文誤用例（部位に関するもの）〉（（ ）内は上・中・初級レベルの略）

- (9) *ずきずき駅に行きます。(上) (10) *友達がずきずき来ます。(中)
 (11) *心ががんががします。(中) (12) *王さんの足はきりきりします。(中)
 (13) *傷口がいらいらと流れている。(中) (14) *足がどきどきします。(初)

吉永・宮田・鈴木（2012）では、心身の状態表現の理解度を中級以上（中級前半・後半、上級）の日本語学習者で調査したが、全般的に理解度が低い傾向が見られた¹⁰。学習レベルが中級前半、中級後半、上級と上がるにしたがって全体的な正答率は上昇したが、上級でも「ずきずき」「むかむか」「きりきり」などの語彙は正答率が低かった。特に、痛みの部位と擬態語の結びつきを選択する問題での正答率が低く、擬態語と身体部位の関係性を理解していないことが原因の一つであったと考えられるが、今回の調査でも似通った現象が見られた。

3. 中国語の擬態語表現との対照

吉永（2011）では、初・中・上級の中国語話者30人、英語話者30人、韓国語話者30人における心身表現の誤用（擬態語も含む）を調べたが、中国語話者に最も誤用が多く、上級レベルでも様々な誤用が見られた。これらの誤用原因については、両国語の心身表現の多様さによる「多対多」の対応の複雑さ、人称制限や格助詞、品詞などの表現差によるものと判断した。心身の擬

態語表現の誤用に関しても、中国語では擬態語によって様々な状況を表現し分ける言語習慣がないなど、様々な表現差が影響していると思われる。

擬態語を含む文を中国語に全文翻訳するアンケート④では「きりきり」「ずきずき」をどちらも「很疼」とても痛い」と回答している例が多く、意味の違いが反映されているものは少ない。

以下、多く見られた翻訳例を挙げる。

(15)・・・(胃が) きりきりする。(正答例：刺痛，绞痛，剧烈疼痛)

〈翻訳例〉心情很烦躁，胃疼，胃很疼，很难受，胃有点恶心，胃一直疼，胃很不舒服

(16)・・・ずきずきする。(正答例：灼痛，一阵又一阵地胀痛)

〈翻訳例〉很疼，很痛，很烦躁，有点痛，刺痛，火辣辣地疼

角岡（1993）では、日本語が多様なオノマトペを使い分け微細なニュアンスの違いを表現しているのに対し、中国語ではオノマトペ表現によらないで、動詞の結果補語など他の品詞によって表現することが多く、また、日本語ほど細かく表現する習慣がないので、オノマトペ固有のニュアンスが表現できない場合も多いとしている。また、中国語起源の擬態語「例：茫茫、悠悠、唯々諾々、赤裸々」は、意味や形態が保存され日中同義のものと、借用時から変化し異なってしまったもの「例：散々」があるとされている。これらの中国語起源の擬態語については、漢字で意味が推量できるため、中国語話者では習得上の利点が見込まれる。

中石（2014）では、オノマトペの誤用原因について、日中語間の音象徴の相違の他に、中国語話者がオノマトペを一般語彙が豊語化したものと捉えることを挙げている。中国語には語彙を豊語化することによって意味の描写性を高める強調用法があり、日本語のオノマトペの意味・形態と似通っているために誤用が起こるとし、「もじもじ」を「文字を書く様子」とした誤用を例に挙げている¹¹⁾。また、中国語の豊語型オノマトペ表現には日本語と音声似ているものと全く異なるものがあり、音象徴の対照は複雑である。

〈似ているもの（擬音的なもの）〉

(17) 肚子咕噜咕噜地响。(お腹がごろごろなる)

(18) 面条溜溜溜溜的特别滑。(うどんがつるつるしている)

(19) 心脏咚咚。(心臟がどきどきする)

〈似ていないもの〉

(20) 他浑身是汗，衣服湿淋淋的。(服がぐっしょりだ)

(21) 他整天迷迷糊糊的，就像没睡醒一样。(一日中うとうととして)

(22) 石板地上长满了溜溜溜溜的青苔。(ぬるぬるの苔)

4. 効率的な指導について

以上の考察より、日本語習得に効率的な指導のための改善点として以下の項目が考えられる。

- i) 導入段階で擬態語動詞、擬態語形容詞、擬態語副詞の品詞区分を指導内容に入れる。
- ii) 導入段階で部位と擬態語の関連について説明する。

また、オノマトペ教育では、近年、効率的な教材開発の必要も注目されている。

有賀（2007）は、オノマトペの意味説明の場合、辞書などの文字媒体では限界があるとし、視聴覚的な教材開発の必要性を提唱している。中国語話者の文法的相違、音象徴の相違による誤用を防ぐためにも視聴覚的な教材は有効と思われる。

更に、音声形態と意味の関連を利用することも効率的な指導に有効であると思われる。

浜野（2014）では促音を含むオノマトペは変化性、瞬間性を内包し、「ぴかっと」「ぱたっと」のような語末の促音「っと」は音や運動が急激に終結することを示すとし、『日本語オノマトペ辞典』では、同じ音形が繰り返される量語型は音や動作・状態の継続・繰り返しを表現するとしている。

例えば、第1節Aで挙げた促音「っ」を含むものは、促音が表す瞬間的变化を内包するので時間性を持つ擬態語動詞に派生するが、形容詞には派生しない点でB、Cと異なる。これらには「かっとする、はっとする、ひやっとする、ほっとする、むっとする、すっとする、ぞっとする、ぞくっとする、どきっとする、びくっとする、むかっとする（以上全てA）」が挙げられる。一方、B「くたくただ、からからだ、ぺこぺこだ」C「ふらふらだ、ざらざらだ、ふわふわだ」には、促音「っ」を含むものは見られない。効率的な指導のために、音声と意味の関与について更に精査する必要があると思われる。

5. おわりに

心身の状況を表す擬態語を動詞性、形容詞性から4種に分類し、形態による機能の違いを観察した。そして、擬態語が本来的に持っている語彙的性質により動詞や形容詞など多様な形態に派生し、特定部位による部位限定性も有することを論じた。

習得状況調査の結果により、これらの文法的な複雑さが習得の問題に影響を及ぼしていることがわかった。品詞分類や部位限定性の知識と習得状況には関連が見られ、導入時の指導の必要性が示唆された。

日本語教育では一般的に擬態語に関する研究が遅れているが、医療福祉分野で使用頻度の高い擬態語について、効率的指導の必要性が最近注目されて来ている。音声と形態の関与、誤用分析や言語対照で得られた知見を活かし、効率的な指導方法を考えていくことは喫緊の課題である。（本研究の一部は日本学術振興協会科学研究費（課題番号：15 K 02670（H 27-29））の研究助成により行われた。）

注

- 1) 本稿で扱う擬態語は、痛覚や触覚などを表すものとし、味覚や食感「ぶりぶり」「さくさく」などは

- 除き、「ごくごく（飲む）」「こんこん（咳をする）」「がらがら（うがいをする）」など擬音語も除外する。「と」の有無については本質的な意味には関与しないものとする。また、心理的なものは「擬情語」とも呼ばれるが本稿では擬態語で統一する。
- 2) 「ほんやり、すっきり、さっぱり、うっかり、がっかり、しっかり、うんざり、のんびり」などにおいては、「ほんやりした人」を「ほんやりだ」と表現するなど、象徴的な意味を表す名詞用法に「だ」を後接することがある。
 - 3) ナ形容詞は名詞に前置される際、「きれいな花」の様にナに活用するが、擬態語の場合「カラカラな喉」の様にナはやや不自然であるが全く許容されないわけではないので、便宜的にこのグループをナ形容詞と見なす。
 - 4) 「この体勢を取ると腹筋がぶるぶるします」「背中がぐっしょりしている」など「する」が動詞の代用として用いられる場合もある。また、他に「渋滞でいらいらが募る」、「薬剤でパイプのぬるぬるを落とす」のような名詞、「どっきり（番組）」「ぎっくり（腰）」などの名詞複合語、「ずきずき痛む（痛い）」、「ふらふら揺れる」、「つるつる滑る」などの副詞用法もあり、用法は多岐にわたっている。（田守（1993）浜野（2014））
 - 5) 動作性を内包する名詞は「研究する」「到着する」の様に「する動詞」を形成し動詞性を意味内容に含み、「聡明」「謙虚」などの形容詞性を内包する名詞は「聡明だ」「正常だ」の様にナ形容詞を形成し形容詞性を意味内容に含むと考える。
 - 6) 工藤（2014）は「痛む」「いらいらする」のような動詞を「一時的な静的現象を表す状態動詞」と考え「頭がずきずきする/ずきずきしている」を等価としアスペクトを認めていない。Aの擬態語動詞の一部（継続的なもの「いらいら、はらはら、わくわく、どきどき、ずきずき、うとうと、ごろごろ等」、瞬間的なもの「ぞっと、すっきり等」）にはアスペクトが認められるが、Cは「ざらざらする/している」の様に「する/している」が等価で、アスペクトが認められない。
 - 7) 加藤（2015）は、擬態語「ゆっくり」「しっかり」は体詞（副詞類、連用詞、H類）と分類しているが、他の擬態語についての記述はない。
 - 8) 中国語話者を調査対象として選定したのは、日本語学習者の7割を超える学習人口の多さと誤用傾向の明確さによるものである。杭州師範大学、内蒙古大学、常州工学院、神戸学院大学の日本語学習者148名（上級（学習期間3年）46名、中級（同2年）44名、初級（同1年）58名）に心身の状況を表す擬態語の習得度を測るアンケート①②③を実施した。また、常州工学院、南京農業大学の日本語学習者222名（上級94名、中級87名、初級41名）に全文翻訳作文アンケート④を実施した。
 - 9) アンケート①は中国語訳を付しているため、擬態語の知識を問うアンケート②、③では異なる被験者を対象としている。また、「ぺこぺこ」は「お腹がぺこぺこ」か「ぺこぺこお辞儀をする」か紛らわしいので②の全文作文では除いている。
 - 10) 痛みの部位と擬態語の結びつき、痛みの種類の理解度を調べた。上級話者でも正答者数は各問とも半数以下であった。（被験者82名の国籍：中国、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、ロシア）
 - 11) 中石（2011）では日本語のオノマトペ語彙率は約2.5%だが、中国語では0.5%に過ぎず、中国語に擬音語（象声詞）はあるが擬態語は語類として成立せず、多くは形容詞として用いられ文章的であると述べている。

参考文献

- 有賀千佳子（2007）「オノマトペを通して、語彙の学習・教育について考える」『日本語学』26（7）、明治書院。
- 影山太郎（2005）「擬態語動詞の語彙概念構造」第2回中日理論言語研究会発表要旨。
- 加藤重広（2015）「形容動詞から見る品詞体系」『日本語文法』15巻2号、くろしお出版。
- 角岡賢一（1993）「日本語の「擬似オノマトペ」-日本語と中国語の接点」笈壽雄・田守育啓編『オノマトペ 擬音・擬態語の楽園』、勁草書房。

- 角岡賢一 (2007) 『日本語オノマトベ語彙における形態的・音韻的体系性について』くろしお出版。
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房。
- 田守育啓 (1993) 「日本語オノマトベの統語範疇」 笈壽雄・田守育啓編『オノマトピア擬音・擬態語の楽園』、勁草書房。
- 張麟声 (2014) 「中国語話者による中日同形漢語語彙の習得を考えるための対照研究」『中国語話者のための日本語教育研究』第5号、日中言語文化出版社。
- 中石ゆうこ・佐治伸郎・今井むつみ・酒井弘 (2011) 「中国語を母語とする学習者は日本語のオノマトベをどの程度使用できるのか」『中国語話者のための日本語教育研究』第2号、日中言語文化出版社。
- 中石ゆうこ・坂本沙織・酒井弘 (2014) 「「はらはら」は「元気な様子」?」『中国語話者のための日本語教育研究』第5号、日中言語文化出版社。
- 浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトベ』くろしお出版。
- 吉永尚 (2008) 『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院。
- 吉永尚 (2011) 「中国語話者における心理表現上の母語干渉について」園田学園女子大学論文集第45号。
- 吉永尚・宮田久枝・鈴木庸子 (2012) 「心身の状態表現に関する日本語教育の諸問題－医療従事者のグローバル化に向けて－」園田学園女子大学論文集第46号。
- 吉永尚 (2015) 「心身の状況を表す擬態語動詞についての素性分析」園田学園女子大学論文集第50号。

参考資料

- 小野正弘編『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトベ辞典』小学館、浅野鶴子編『擬音語・擬態語辞典 (角川小辞典 12)』角川書店、飛田良文・浅田秀子『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版、五味太郎『日本語擬態語辞典』講談社+α文庫、国際交流基金『日本語でケアナビ』、国立国語研究所 BCCWJ、廣部久美子・吉永尚『日中英医療介護 Healthcare』スマートフォン用アプリ (Apple)

[よしなが なお 日本語教育・日本語学]

アンケート調査用紙①〈文末選択〉

日本語学習歴 () 年 学校名 ()

✳次の文の { } のうちふさわしいと思うものを一つ選んで () に○を入れてください。

- 1) 今日は朝から頭ががががんだ () / する () だ。[今天从早上起就头疼欲裂。]
- 2) 朝早くから夜遅くまで働いてくたくただ () / する () だ。[从清早工作到深夜, 累得筋疲力尽。]
- 3) 走ったので心臓がどきどきだ () / する () だ。[跑得心脏扑咚扑咚跳。]
- 4) 難しい問題があって胃がきりきりだ () / する () だ。[遇到了难题, 胃刺痛。]
- 5) やけどをしたところがずきずきだ () / する () だ。[烫伤的地方一阵阵地疼。]
- 6) 暑い時にスポーツをしてのどがからからだ () / する () だ。[天热的时候做运动, 嗓子渴得冒烟。]

- 7) なかなかバスが来なくていらいら { だ () / する () }。[公交车总是不来, 急死人了。]
- 8) 朝から何も食べていないのでおなかがぺこぺこ { だ () / する () }。[从早上起什么也没吃, 肚子快饿瘪了。]
- 9) 怖い映画を見てぞっと { だ () / する () }。[看恐怖电影, 后背发凉。]

アンケート調査用紙②〈全文作文〉

日本語学習歴 () 年 学校名 ()

✳ 次の各語を使って、日本語の短い文を作文してください。

- 1) くたくた ()
- 2) きりきり ()
- 3) どきどき ()
- 4) ずきずき ()
- 5) いらいら ()
- 6) がんがん ()
- 7) からから ()
- 8) ぞっと ()

アンケート調査用紙③〈擬態語選択〉

日本語学習歴 () 年 学校名 ()

✳ 次の文の { a / b / c } について、最もふさわしいと思うものを一つ選んで () の中に○を書いてください。

- 1) 今日は朝から頭が { a むかむか () / b がんがん () / c どきどき () } する。
- 2) 昨夜は { a ぐっすり () / b はっきり () / c すっかり () } 眠れました。
- 3) 薬を飲んで胃が { a ぐったり () / b すっかり () / c すっきり () } しました。

- 4) 走ったので心臓が { a むかむか () / b ずきずき () / c どきどき () } します。
- 5) 難しい問題がたくさんあって胃が { a きりきり () / b いらいら () / c どきどき () } する。
- 6) やけどをしたところが { a むかむか () / b ふらふら () / c ずきずき () } します。
- 7) 足が痺れて { a そわそわ () / b きりきり () / c じんじん () } する。
- 8) なかなかバスが来なくて { a ふわふわ () / b いらいら () / c ずきずき () } する。
- 9) このクリームを塗ると肌が滑らかに { a ちくちく () / b すべすべ () / c ごわごわ () } になります。
- 10) やっと熱が下がって、気分が { a どっきり () / b すっきり () / c すっかり () } しました。

アンケート調査用紙④〈全文中国語翻訳〉

日本語学習歴 () 年 学校名 ()

✳ 次の各文を中国語に翻訳してください。

- 1) 今日は朝から頭ががんがんする。
- 2) 昨夜はぐっすり眠れました。
- 3) 薬を飲んで胃がすっきりしました。
- 4) 走ったので心臓がどきどきします。
- 5) 難しい問題がたくさんあって胃がきりきりする。
- 6) やけどをしたところがずきずきします。
- 7) 足が痺れてじんじんする。
- 8) なかなかバスが来なくていらいらする。
- 9) このクリームを塗ると肌が滑らかにすべすべになります。
- 10) 怖い映画を見てぞっとしました。